# 西赤座遺跡

長野県佐久市岩村田西赤座遺跡調査報告書

2003. 3

学校法人佐久学園 佐久市教育委員会 佐久市埋蔵文化財調査報告書 第112集

# 西赤座遺跡

長野県佐久市岩村田西赤座遺跡調査報告書

2003. 3

学校法人佐久学園 佐久市教育委員会 1. 本書は、学校法人佐久学園が行う学校グランド造成事業に伴う、埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2. 調查委託者 学校法人佐久学園

3. 調査受託者 佐久市教育委員会

4. 遺跡名 西赤座遺跡(INAK)

5. 所在地 長野県佐久市大字岩村田字西赤座3,653-1、3,641-1

6.調查期間

試掘調査

平成14年10月22日~10月30日 900m<sup>2</sup> (開発面積4.849m<sup>2</sup>)

発掘調査 平成14年12月6日~12月26日、平成15年1月14日~1月16日

整理期間 平成14年2月17日~3月12日

7. 調査面積 320m² (開発面積4,849m²)

- 8. 遺物の復元は、荒井ふみ子・神津ツネヨが行った。
- 9. 土器の実測は高見澤綾・田中ひさ子・森角雅子・柳沢孝子が、石器の実測は花岡美津子が行った。
- 10. 遺物のトレスは、副島充子が行った。
- 11. 遺物写真は、佐々木宗昭が撮影した。
- 12. 本書の編集・執筆は、林が行った。
- 13. 出土遺物および調査に関する記録類は、一括して佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡. 例

1. 遺構の略号は次のとおりである。

H-竪穴住居址、F-掘立柱建物址、P-ピット、M-溝址

- 2. 挿図の縮尺は、原則として次のとおりである。挿図中にスケールを示した。 遺構 1/80 遺物 1/4
- 3. 遺構の海抜標高は各遺構毎に統一に努め、水糸標高を記した。
- 4. 土層の色調は、1988年版『新版 標準土色帳』に基づいた。
- 5. 遺物挿図番号と遺物写真番号及び観察表の番号は一致する。
- 6. 調査区グリッドは公共座標に従い、間隔は4×4mに設定した。

# 目 次

例言・	凡例	
第Ⅰ章	発掘調査の概要	
第11	節 発掘調査の経緯	1
第21	節 調査組織	2
第31	節 調査日誌	2
第41	節 環境	2
第51	節 層序	4
第6章	節 検出された遺構と遺物	4
第Ⅱ章	遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
第11	節 竪穴住居址	6
第2章	節 掘立柱建物址	11
第3章	節 溝址	12
第4章	節 単独ピット	14
第Ⅲ章	まとめ	14
図版		
挿図目	次	
第1図	西赤座遺跡の位置	1
第2図	周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
第3図	西赤座遺跡基本層序模式図	4
第4図	西赤座遺跡調査区設定図・調査全体図	5
第5図	H 1 号住居址 (1) ·····	6
第6図	H 1 号住居址 (2) ······	8
第7図	H 2 号住居址(1) ······	9
第8図	H 2 号住居址 (2) ······	10
第9図	F 1 号掘立柱建物址 M 5 号溝址 P 2 · P 3 ······	11
第10図	M 2 号溝址出土遺物······	12
第11図	M 1 ~ 4 · M 6 · M 7 号溝址 P 4 · P 5 · · · · · · · · · · · · · · · · ·	13
表目次	•	
第1表	周辺遺跡一覧表	4
第2表	H 1 号住居址出土遺物一覧表 ······	7
第3表	H 2 号住居址出土遺物一覧表······	10
図版目	次	
図版 1	H 1 号住居址 M 4 · M 7 号溝址	
図版 2	H 1 号住居址 H 2 号住居址 掘立柱建物址 1 号址 M 2 · M 5 号 · M 6 号溝址	
図版 3	出土遺物	

# 第 I 章 発掘調査の概要

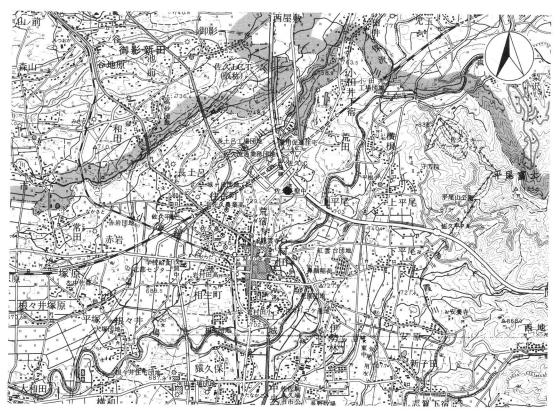
## 第1節 発掘調査の経緯

佐久市の北部から小諸市にかけては、浅間山から放射状に「田切り」地形が展開する。西赤座遺跡は佐久市の北部にあり、浅間軽石流が基盤となる南北に伸びる標高732m~736mの「田切り」地形に挟まれた平坦な微高地上に立地している。南端は「田切り」の比高差10mの崖で区切られ、東西には低地が見られる。東の低地を挟んで栗毛坂遺跡群と隣接している。栗毛坂遺跡群の北半の東西端は、顕著な「田切り」地形により長土呂遺跡群・跡坂遺跡群と対峙している。南半の東側は南流する湯川に面している。

西赤座遺跡の周辺は、佐久市北部区画整理事業・上信越自動車道などの開発が急激に進められた地域である。これらの開発に起因して多くの遺跡が調査され、消滅している。

今回、学校法人佐久学園が長聖中学校の学校グランドを拡張することになった。対象地の西側の隣接地は、テニスコートおよび駐車場造成時に遺構確認調査がされ、古墳時代後期・奈良・平安時代の遺構と遺物が検出されている。南側の市道2-83号線の道路改良時には、古墳時代~平安時代の竪穴住居址19棟、掘立柱建物址5棟が等が検出された。このため、平成14年10月22日~10月30日に遺構の存在の確認調査を行った。その結果、対象地の西側と南側から竪穴住居址などの遺構と奈良時代・平安時代の遺物が検出された。

保護協議の結果、グランド面部分は盛り土し遺構の保護をすることになり、擁壁工事される部分を記録保存の発掘 調査をすることとなった。調査は、学校法人佐久学園から委託を受けた佐久市教育委員会が平成14年12月から実施し た。



第1図 西赤座遺跡の位置図(1:50,000)

## 第2節 調查組織

平成14年度 (2002年度)

調查受託者 佐久市教育委員会

教育長

髙栁 勉

事務局

黒沢 俊彦

教育次長 文化財課長

嶋崎 節夫

文化財係長

森角 吉晴

文化財係

林 幸彦、三石 宗一、須藤 隆司、小林 真寿、冨沢 一明、

上原 学、山本 秀典、出澤 力

調査体制

調査担当者 林 幸彦

調査主任

佐々木宗昭

調查員

荒井ふみ子、柏木 義雄、神津ツネヨ、佐藤しげ子、田中 章雄、

高見澤 綾、田中ひさ子、森角 雅子、柳沢 孝子、副島 充子、花岡美津子

## 第3節 調査日誌

#### 平成14年

10月20日~10月30日 遺構調査。重機に より表土はぎを行い、遺構確

認の精査をした。 12月2日 測量基準杭の打設。

12月4日 プレハブ・トイレ設置。

12月6日 遺構の掘り下げ開始。 H1

号住居址とH2号住居址の覆土を掘り下げた。作業終了時に覆土の凍結を防ぐために、 PPムシロとビニールシート

で調査区を覆う。

12月9日 降雪30cm。現場作業中止。

12月10日 午前中、昨夜来の雪を掃く。

12月25日 年内の作業は、本日までと

する。



調査の状況

#### 平成15年

1月14日 作業再開。溝状遺構とピット群を掘り下げる。凍結が激しい。

1月15日 全体図作成、器材を撤収し現場作業を終了する。

2月17日~3月31日 室内にて土器洗い・復元・遺物実測・版下作成・原稿執筆を進め、報告書を刊行した。

### 第4節 環境

西赤座遺跡の周辺は「田切り」地形が発達していて、その台地上には多くの遺跡群が確認されている。北に長土呂遺跡群・芝宮遺跡群・周防畑遺跡群、北東に跡坂遺跡群・中金井遺跡群、隣接して曽根新城跡・岩村田遺跡群・中久保田遺跡・栗毛坂遺跡群・枇杷坂遺跡群などがある。これらの遺跡群は、上信越自動車道とその関連工事、佐久市岩村田北部第一土地区画整備事業、佐久市流通業務団地等の開発に伴い記録保存調査されている。

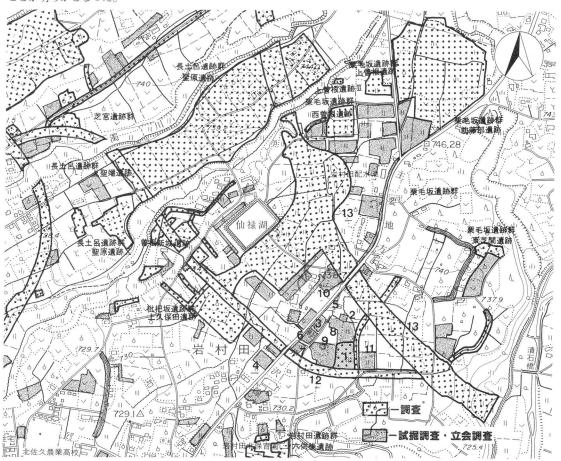
長土呂遺跡群・周防畑遺跡群・枇杷坂遺跡群の南西端にあたる標高725m以下の一帯からは、弥生時代後期の集落が確認されている。長土呂遺跡群・芝宮遺跡群・周防畑遺跡群の国道141バイパス以北では、古墳時代~平安時代の

遺構・遺物が検出されているが、特に大規模な古代集落の存在が明らかとなっている。西赤座遺跡に隣接する枇杷坂 遺跡群北東部・栗毛坂遺跡群は、奈良・平安時代~中世の遺構が多く検出されている。

西赤座遺跡は、上信越自動車道や道路建設・店舗建設等の開発時に10カ所で試掘調査、2カ所で発掘調査されている。上信越自動車道建設に関わり長野県埋蔵文化財センターにより調査された地点は、周知されていた西赤座遺跡の範囲外であったが、中世以降の掘立柱建物址1棟などが検出された。遺物は平安時代の須恵器や縄文時代の石器が出土している。市道建設に関わる佐久市教育委員会による赤座垣外遺跡(西赤座遺跡と同一の遺跡である。)では、竪穴住居址18棟、掘立柱建物址5棟、土坑14基、溝状遺構13基が検出されている。10カ所の試掘調査では、今回の調査地点の西側に隣接する西赤座遺跡8で竪穴住居址36棟、掘立柱建物址7棟、溝4本、土坑、ピット群が確認され、古墳時代後期・奈良・平安時代の遺物が出土した。西赤座遺跡8の西の試掘調査地点である西赤座遺跡2・5・6は1mほど低く、南北に延びる幅7~10mの溝が1本検出されただけである。この溝は赤座垣外遺跡で調査され、深さ1.7mを測る。西赤座遺跡の東に隣接する栗毛坂遺跡群の上信越自動車道建設に関わり長野県埋蔵文化財センターにより調査された地点は、縄文時代~中世の遺構・遺物が検出されている。古墳時代後期~平安時代は竪穴住居址約150棟、掘立柱建物址約140棟等がみられる。さらに、掘立柱建物址が廻る竪穴状遺構、竪穴状遺構、掘立柱建物址、井戸、柵列、の遺構群が調査され、中世(13~15世紀)の3群の屋敷を構成したと考えられている。

西赤座遺跡と栗毛坂遺跡群とは、低地を挟む。

10カ所の試掘調査、2カ所の発掘調査、栗毛坂遺跡群の発掘調査、赤座垣外遺跡の調査結果から、西赤座遺跡は三方を「田切り」地形の崖と低地に囲まれた東西200m南北200mの規模を持った古墳時代後期~平安時代の遺跡ということが明らかとなった。



第2図 周辺の遺跡(1:10,000)

第1表 周辺遺跡一覧表

	遺跡群•遺跡名	開発主体者	年 度	保護措置	面積	内容
1	西赤座遺跡	学校法人 佐久学園	H14年	試掘→調査	3 2 0 m <sup>2</sup>	本報告書
2	西赤座遺跡1	学校法人 佐久学園	H 3 年	立会調査	297m²	遺構・遺物未確認
3	西赤座遺跡 2	森角 淳	H 3 年	試掘	1,4 4 1 m <sup>2</sup>	溝址—1
4	西赤座遺跡3	渡辺 春吉	H3年	立会調査	2,338m <sup>2</sup>	遺構・遺物未確認
5	西赤座遺跡 4	佐久建設事務所	H3年	立会調査	1,000m <sup>2</sup>	遺構·遺物未確認
6	西赤座遺跡 5	森角 淳	H 3 年	試掘	1,179m²	溝址一1
7	西赤座遺跡 6	(株)デライツフーズ	H 5 年	試掘	1,548m²	溝址—1
8	西赤座遺跡 7	学校法人 佐久学園	H 5 年	試掘	4,391 m <sup>2</sup>	遺構・遺物未確認・一部不明
9	西赤座遺跡8	学校法人 佐久学園	H6年	試掘	4,229 m²	住居址-36(古墳〜平安)、掘立柱建物址-7、溝址-4、 土坑-6、ピット群
10	西赤座遺跡 9	(株)オートアールズ	H7年	試掘	4,121m <sup>2</sup>	遺構·遺物未確認
11	西赤座遺跡10	萩原 福太郎	H11年	試掘	1,213 m <sup>2</sup>	打製石斧1点
12	赤座垣外遺跡	佐久市土木課	H 2 年	調査	4,749m²	住居址—18(古墳~平安)、掘立柱建物址—5、溝址—13、 土坑—14、
13	栗毛坂遺跡群	日本道路公団	S61~63年 H2年	長野県埋文 センター調査	8 3,700m²	縄文(土坑20、礫群15)弥生~古墳前期(住居址7)古墳後期~平安(住居址139、掘立柱建物址150、溝址4、畑址3、柵列2)中世(住居址6、掘立柱建物址11)土坑780、溝址104

# 第5節 層序

西赤座遺跡は、三方を「田切り」地形の崖と低地に囲まれている。

今回の調査地点は、遺跡の東端にあたるため基盤となる浅間第一軽石流堆積物の上面は東に向け低くなり、グリッ ド  $6\sim8$  列が最も低い。低い。東隣の西赤座遺跡10では、西に傾斜する地形が確認されている。この低地は、長野県 埋蔵文化財センターにより調査された栗毛坂遺跡群B地区西端にみられる低地が南に延びているものとみられる。 I 層は水田である。  $I_1 \sim I_4$  層は、近現代の水田、  $I_5 \cdot I_6$  層は、時期不明の水田である。

 $I_2 \sim I_6$  層はグリッド 9 列より東に認められた。

堆積物となる。遺構確認面は、Ⅱ~Ⅳ層である。

Aトレンチおよびグリッド14列付近は、I3

層直下がⅣ層の浅間第一軽石流となる。

- I1層 黒褐色土 (7.5YR3/1) 水田畦畔。
- I2層 黒褐色土 (10YR3/2) 水田
- I3層 暗褐色土 (7.5YR3/1) 水田耕土
- I4層 暗赤褐色土 (5YR3/2) 水田床土。鉄分沈殿。
- I5層 黒褐色土(10YR2/2)水田耕土。
- I6層 暗赤褐色土(5YR3/3)水田床土。鉄分沈殿。
- Ⅱ層 黒褐色土(10YR2/2) 粘質有り、白色の軽石少量。
- Ⅲ層 にぶい黒褐色土 (10YR4/3) 黄色の軽石少量。
- IV層 黄褐色土(10YR5/6)浅間第一軽石流。

# 第6節 検出された遺構と遺物

遺構

物 遺

竪穴住居址-2棟(4棟)

土師器・須恵器

掘立柱建物址-1棟(1棟)

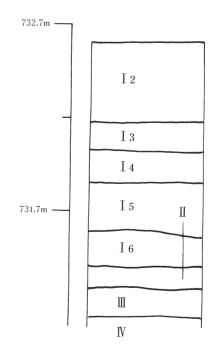
石器

溝 状 遺 構-7本(8本)

土 坑-0基(2基)

ピット-5基(7基)

( ) 内は、試掘調査時の確認遺構総数



第3図 西赤座遺跡基本層序模式図 (M4付近)

# Y=-1,230 + X=31,000 -1,230 +31,050 赤座垣外遺跡 西赤座遺跡-8 3646-9 3642-1 M7 M6 3640-1 M5 Gトレンチ 3653-1 1トレンチ 3641-1 Eトレンチ X=31,050 CHL M2 .020 西赤座遺跡 (1:1000)

第4図 西赤座遺跡調査区設定図·調査全体図(1:1,000)

# 第Ⅱ章 遺構と遺物

今回の試掘調査は、3,653-1・3641-1番地で実施した。 $B \sim H + \nu \nu + \mu$ 、全体層序の $\Pi$ 層が、現水田面下 $70 \sim 80$ cmで見られ、低地となっている。この範囲から遺構と遺物は、検出されなかった。 $A + \nu \nu + \mu$ は現水田の直下がM層で、2棟の竪穴住居址などが見られ、西側の試掘調査された西赤座遺跡 8の遺構群が東に続いていることが確認できた。

Iトレンチからは、今回調査 されたH1・2号住居址、F1 号掘立柱建物址、M1~7号溝 址、ピット5基が検出された。

遺物は、土師器・須恵器などが出土した。

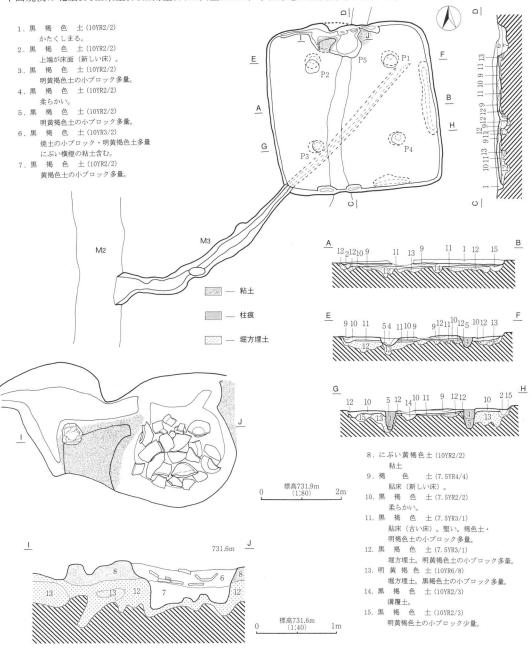
本調査地点の南側に接した赤座垣外遺跡では18棟(1棟は拡張が見られた)の竪穴住居址が検出された。古墳時代後期3棟、奈良時代2棟、平安時代11棟、時期不明2棟であった。

また、本調査地点の西側に接 した西赤座遺跡8の試掘調査で は、古墳時代後期・奈良・平安 時代の竪穴住居址36棟などが確 認されている。

## 第1節 竪穴住居址

### (1) H 1号住居址

本住居址は、調査区の東端から検出された。遺構確認面は、全体層序の第IV層である。 平面規模は北壁3.6m東壁3.8m南壁3.6m西壁3.6m、平面形態は隅丸方形を呈する。



第5図 H1号住居址(1)

第2表 H1号住居址出土遺物一覧表

No	器 種	法		(cm)		成 形 · 調 整		備	考										
		口径	器高	底径	H =	ris カワ で おナン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・													
1	須恵器坏	(14.7)	4.7	9.0	外面	底部手持ちヘラケズリ 火襷	完全実測	P5内6層	I区堀方										
					外面	火襷 底部手持ちヘラケズリ 火襷													
2	須恵器坏	15.0	4.5	9.6	内面	火襷	完全実測	P5内6層	II 🗵										
					外面	 底部手持ちヘラケズリ 火襷													
3	須恵器坏	13.6	4.5	6.9	内面	火襷	完全実測	P5内6層											
		/	( )	()	外面	回転へラ切り													
4	須恵器坏	(15.5)	(4.1)	(8.4)			回転実測	P5内6層											
5	須恵器坏	(13.1)	3.5	(7.6)	外面	底部回転糸切り後、回転ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ 区 1 届											
J	7只心郁的************************************	(13.1)	3.3	(1.0)		ヘラ記号	四粒天例												
6	須恵器坏	(13.8)	(4.1)	(8.2)	外面	底部回転糸切り後、手持ちヘラケズリ	回転実測	P5内6層	I 区堀方										
					,,,														
7	須恵器 高台坏	(17.8)	(7.5)	(11.7)	外面	底部手持ちヘラケズリ、ナデ 高台貼付	回転実測	P5内6層											
	1.41				外面	体部下半・底部手持ちヘラケズリ			Ⅱ区1層										
8	土師器坏	不 (15.0)	5.7	(7.4)		ミガキ 黒色処理	回転実測	P5内6層											
	t des DD les								/	外面	口辺部ヨコナデ 体部下半底部ヘラケズリ								
9	土師器坏	(14.0)	remembers	(13.6)		口辺部ヨコナデ	回転実測	IV区1層											
10	土師器甕	(23.6)			外面	口辺部ヨコナデ後 胴部ヘラケズリ	同転生細	DE内G屋											
10	二二十二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	(23.0)			内面	口辺部ヨコナデ後、ヘラナデ	回転実測 P5内6層												
11	土師器甕	(22.0)	_		外面	口辺部ヨコナデ後 胴部ヘラケズリ	回転実測	P5内6層	I 区1層										
		(,			内面	口辺部ヨコナデ後、ヘラナデ													
12	土師器甕	(21.4)	_	_	外面	口辺部ヨコナデ後 胴部ヘラケズリ	回転実測	P5内6層	I 区1層										
	.,					口辺部ヨコナデ後、ヘラナデ													
13	土師器甕	(21.6)	-	_		口辺部ヨコナデ後 胴部ヘラケズリ 口辺部ヨコナデ後、ヘラナデ	回転実測	P5内6層											
																ロクロ成形			
14	土師器甕	(10.9)				ロクロ成形	回転実測 I 区堀方												
1.5	A STATE OF STATE	(15.0)			外面	口辺部ヨコナデ後 胴部ヘラケズリ	E1#= 7+ '00'	T = 1 = 1											
15	土師器甕	(15.6)			内面	口辺部ヨコナデ後、ヘラナデ	回転実測 Ⅱ区1層												
16	須恵器	(10.9)	13.4	16.6	外面	回転ヘラケズリ後、ナデ 高台貼付	完全実測 P5内6層 Ⅱ·Ⅳ区1層		II·IV区1層										
	短頸壺	(10.0)	10.1	10.0			70_1	2 01 10/8	A										
17	須恵器	7.9	_	_			完全実測		Ⅰ・Ⅳ区堀方										
	長頸壺						1・Ⅱ区1層	H2Ⅱ区											

床面積は14.9 $\text{m}^2$ 、壁残高は13cmを測る。南北軸の方位は、N-6 $^\circ$ -Wを指す。

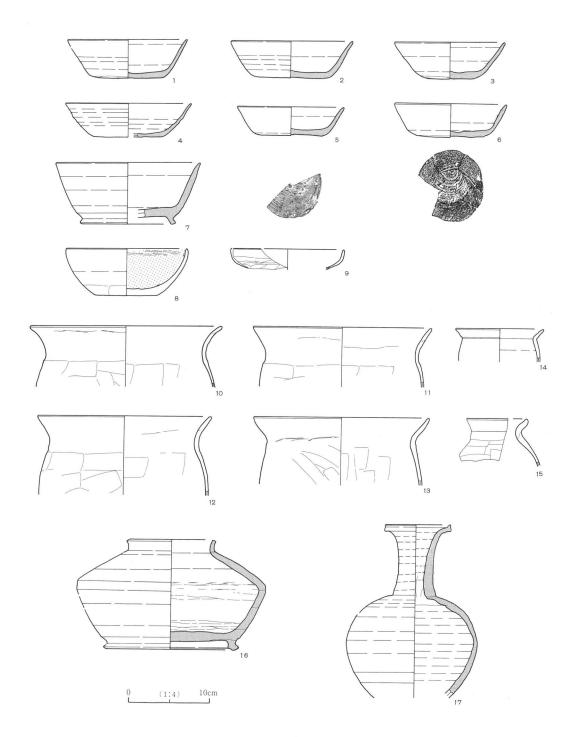
ピットは、床面から5個検出された。主柱穴は $P_1 \sim P_4$ が、東西2m南北2mの方形に配置されている。 $P_3 \cdot P_4$ から径 $20 \sim 26$ cmの柱痕が観察された。

床面は新旧2面が認められた。2面とも $2\sim6$  cmの堅い貼床で、ほぼ平坦である。2面とも $P1\cdot P3$ 付近は貼床がはっきりしない。新しい貼床の下には柔らかな黒褐色土がみられた。古い貼床の下部には、掘り方が認められ明黄褐色土と黒褐色土が埋められていた。掘り方は中央が浅く、壁寄りにかけて四方が深く掘られている。

北壁下中央にある $P_5$ の東西壁には粘土がみられ、覆土 6 層には焼土の小ブロックと粘土が含まれている。 $P_5$  はカマドが破壊された後に掘られたものであろうか。底面から $10\sim20$ cmの 6 層中から第 7 図に示した13点の土器が、敷き並べたような状態で出土した。

北壁・東壁・南壁下に連続しない周溝が検出された。

P1からP3にかけて、幅20~30cm深さ古い床面から約25cmの溝が確認された。覆土は黒褐色土で柔らかであった。南西の角で住居址外のM3号溝址につながる。M3号溝址は、M2号溝址につながっている。南に隣接する赤座垣外遺跡のH17号住居址にも同様な溝址がみつかっている。この住居址内の溝址は、いづれもM2号溝址(M2号溝址は



第6図 H1号住居址(2)

赤座垣外遺跡のM6号溝址につながっている。)に接続している。住居址内の湿気対策の施設なのであろうか。

土師器、須恵器が出土した。ほとんどがP5から出土している。土師器には、坏(8・9)甕(10~15)がある。8 は内面黒色処理され、体部下と底部手持ちヘラケズリされる。9 は体部下と底部手持ちヘラケズリされる。2 の名。2 は体部下と底部手持ちヘラケズリされる。2 の名。2 は体部下と底部手持ちヘラケズリされる。2 の名。2 は小形のロクロ甕である。2 は口辺部から頸部が肥厚し外面はヘラケズリされる。須恵器には、坏(2 、2 )短頸壺(2 )長頸壺(2 )がある。2 、2 の底部は手持ちヘラケズリ、2 は回転ヘラ切り、2 は回転糸切り後回転ヘラケズリ、2 は回転糸切り後手持ちヘラケズリされる。2 は手持ちヘラケズリ後デ調整され、高台が付けられる。2 は大形の短頸壺で胴部強く「く」字のように屈曲する。底部回転ヘラケズリ後高台を付けている。2 に底部を欠損する長頸壺で、胴部丸みを持つ。2 と15は混入品であろう。

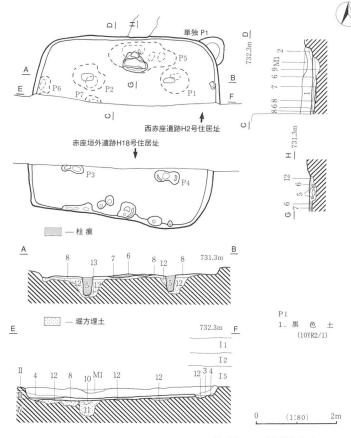
これらの土器は、8世紀第Ⅲ四半期の特徴を持っている。

#### (2) H 2号住居址

本住居址は、調査区の東端H1号住居址の南に隣接する。遺構確認面は、全体層序の第Ⅱ層である。今回検出されたのは、赤座垣外遺跡(平成2年度調査)H18号住居址と同一住居址の北側半分である。以下、それぞれの調査分を一括して1棟の住居址として扱う。

平面規模は北壁3.8m東壁4.2m南壁4.0m西壁3.9m、平面形態は隅丸方形を呈する。

床面積は18.02m<sup>2</sup>、壁残高は20cmを測る。カマドを中心とする主軸の方位は、S-85°-Eを指す。

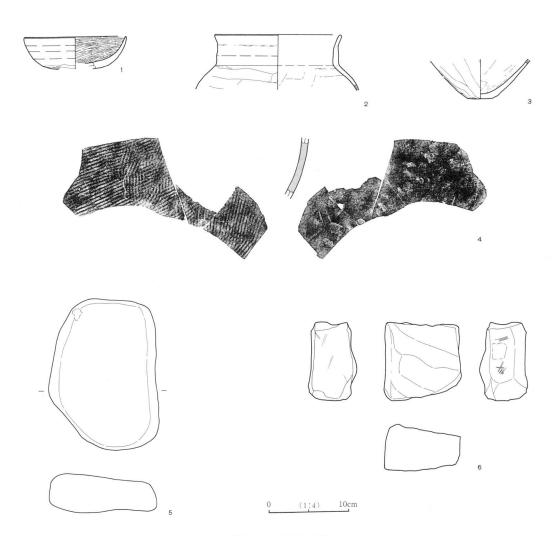


第7図 H2号住居址(1)

- I 1. 黒 褐 色 ± (7.5YR3/1) 水田の畦畔 I 2. 黒 褐 色 ± (10YR3/2) 水田 I 5. 黒 褐 色 ± (10YR2/2)
- 水田耕土 1. 黒 褐 色 土 (10YR3/1)
- 黄褐色土の小ブロック少量。

   2. 黒 褐 色 土 (10YR2/2)

   黄褐色土の小ブロック多量。
- 3. 褐 色 土 (7.5YR4/3)
- 焼土・粘土 (カマドの崩れ) 4. 黒 色 土 (10YR2/1)
- 5. 黒 褐 色 ± (10YR3/1) 黄褐色±の小ブロック少量。柔らかい。
- 6. 黒 褐 色 ±(10YR2/2) 貼床(新しい床)
- 7. 黒 褐 色 ± (10YR3/1) 柔らかい。
- 8. 黄 褐 色 ± (10YR5/6) 貼床(古い床)。
- 9. 黒 褐 色 ± (10YR3/1) 焼土・粘土・黄褐色±ブロック多量。
- 10. 黒 色 ± (10YR2/1) 柔らかい。
- 11. 黒 褐 色 土 (10YR2/3) 堅く締まる。
- 12. 黄 褐 色 ± (10YR5/6) 堀方埋土。黒褐色土の小ブロック少量。
- 13. 黄褐色 ± (10YR5/6) II. 黒褐色 ± (10YR2/2)
- Ⅲ. にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
- IV. 黄 褐 色 土 (10YR5/6)



第8図 H2号住居址(2)

第3表 H2号住居址出土遺物一覧表

No. 器種		法 量(cm)			成 形・調 整	備	考
INQ	6計 1里	口径	器高	底 径	及 //シー   阿 - 並	VIII	-9
1	土師器坏	(12.6)	4	(8.2)	外面 底部手持ちヘラケズリ	回転実測	I区堀方
1	工即益小 (12.0) 4 (8.2)		内面 ミガキ 黒色処理	EI+AX IN	1 (25.911/1)		
2	2 土師器甕			3.2	外面 胴部 底部ヘラケズリ	完全実測	IZ IZ
2					内面 ナデ	九里人的	ng re
3	3 土師器甕		_		外面 口辺部ヨコナデ後、胴部ヘラケズリ	回転実測	Ι区
3	bih 494 342	(15.6) —			内面 口辺部ヨコナデ後、ヘラナデ	E +42 × 160	1 65
4	須恵器甕			_	外面 タタキ		I区 P5内
4	炽心价泥	id M			内面 当て具痕 ナデ		TES 1011

ピットは、床面から 4 個、床下から 3 個が検出された。主柱穴は  $P_1 \sim P_4$  が、東西  $2 \text{ m} \cdot 2.2 \text{ m}$  南北 2.2 m のほぼ方形に配置されている。  $P_1 \cdot P_2$  から径  $20 \times 30 \text{ cm}$  の楕円形の柱痕が観察された。 北壁下中央にある  $P_5$  は、新しい貼床下から検出された。 2 個の礫(安山岩)が並べられていた。 焼土と粘土ブロックが多くみられた。

南壁の下に僅かな凹みがあるが性格等判然としない。

土層断面E-Fの3層にみられた多量の焼土と粘土ブロックは、カマドの構築土に関するものと思われる。 床面は一部に新旧2面が認められた。堅い貼床で、ほぼ平坦である。 $P1\cdot P3$ 付近は古い床がはっきりしない。古い 貼床の下部には、西側で掘り方が認められ黄褐色土が埋められていた。

土師器、須恵器、石器が出土した。土師器には、坏(1)甕( $2\cdot3$ )がある。1 は内面黒色処理され、底部手持ちヘラケズリされる。2 の甕は、底部・胴部外面ヘラケズリされている。3 は、コの字の口縁部形態をもつ武蔵甕である。須恵器は、4 の大形甕がある。1 は、混入品であろう。なお、II 区北壁直下床面から出土した須恵器長頸壺の口辺部片は、H 1 号住居址出土の第7 図17の口辺部である。

4・5は安山岩の磨石で、擦痕と敲打痕がみられる。

これらの土器は、9世紀前半に位置づけられよう。

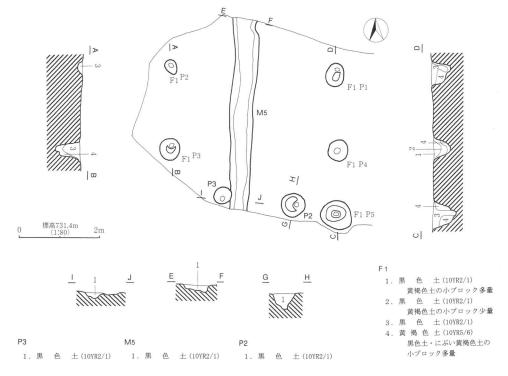
## 第2節 掘立柱建物址

#### (1) F 1 号掘立柱建物址

本址は、調査区の中央から検出された。遺構確認面は、全体層序の第IV層である。

一部調査区域外にある。検出した範囲では、2間×1間の側柱式の掘立柱建物址で、梁間3.6m桁行4m、梁間柱間の長さは、2m·1.6mを測る。長軸は、 $S-98^\circ$ -Eを指す。遺構が北へ続くとすれば、3間×2間の側柱式の掘立柱建物址で、南へ続くとすれば3間×1間の側柱式の掘立柱建物址になろう。

出土遺物はない。



第9図 F1号掘立柱建物址 M5号溝址 P2·P3

## 第3節 溝址

#### (1) M1号溝址

本址は、調査区の東端から検出された。遺構確認面は、全体層序の第Ⅱ層である。南端は調査区域外にある。赤座 垣外遺跡では、確認されていない。

 $\rm H~1~\cdot H~2~$  号住居址の上部を破壊している。幅は $\rm 32\sim60cm$ 、深さ $\rm 3\sim10cm$ を測る。北から南へ傾斜し、比高差は $\rm 16cm$ である。

覆土に砂礫を多く含み自然流路とみられる。出土遺物はない。

#### (2) M 2 号溝址

本址は、調査区の東端から検出された。遺構確認面は、全体層序の第II層である。両端は調査区域外の南北へ続くが、北の試掘トレンチEでは確認されていない。南に接する赤座垣外遺跡では、M6号とされている溝址につながり、さらに南へ延びている。

H1号住居址内から西南へ傾斜しながらのびるM3号溝址が、調査区南端で本址に接続する。さらに、M3号溝址 と類似する赤座垣外遺跡のH17号住居址から始まる溝址がこの溝址につながる。

幅は $110\sim130$ cm、深さ $32\sim44$ cmを測る。北から南へ傾斜し、比高差は8cmである。覆土 $1\cdot3$ 層に砂礫を多く含み流水があったとみられる。

M3号溝址が接続する付近にP1がみられる。径20cm、溝底面からの深さ24cmを測る。

遺物は、須恵器の坏( $1\cdot 2$ )甕(3)が出土した。1の底部は、回転ヘラ切り後手持ちヘラケズリされる。外面に火襷がみえる。復原口径14.0cm、器高3.6cm、復原底径9.7cmである。

2の底部は回転ヘラケズリ、底部内面は、使用のため円滑化している。復原口径14.7cm、器高4.0cm、復原底径9.8 cmである。外面に火襷痕がある。

3の外面には、平行叩目がみえる。復原口径21.4cm。

H1号住居址と同時期の8世紀第Ⅲ四半期に比定されよう。

#### (3) M3号溝址

本址は、調査区の東端から検出された。遺構確認面は、全体層序の第Ⅱ層である。H1号住居址のP1付近から始まり、M2号溝址に合わさる。H1号住居址の旧床面と堀方埋土を切り、本址の上部に新床面がある。

H1号住居址の除湿気の役割を持ったのであろうか。

幅は $20\sim80$ cm、深さ $12\sim20$ cmを測る。北東から南西へ傾斜し、比高差は13cmである。覆土に明らかな流水の跡はみられない。出土遺物はない。

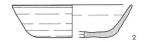
#### (4) M4号溝址

本址は、M2号溝址の西隣から検出された。遺構確認面は、全体層序の第Ⅱ層である。両端は調査区域外の南北へ続くが、北の試掘トレンチFでは確認されていない。南に接する赤座垣外遺跡でも、確認されていない。

幅は30~50cm、深さ12~17cmを測る。北から南へ傾斜し、比高差は8 cmである。覆土  $1 \cdot 3$  層に砂礫を多く含み流水があったみられる。覆土はM 2 号溝址に酷似する。

底面から 4 個のピットが検出された。P1 は径20cm、溝底面からの深さ 8 cmを測る。P2 は径16cm、溝底面からの深さ 9 cmを測る。P3 は径26cm、溝底面からの深さ11cmを測る。P4 は径26cm、溝底面からの深さ25cmを測る。出土遺物はない。

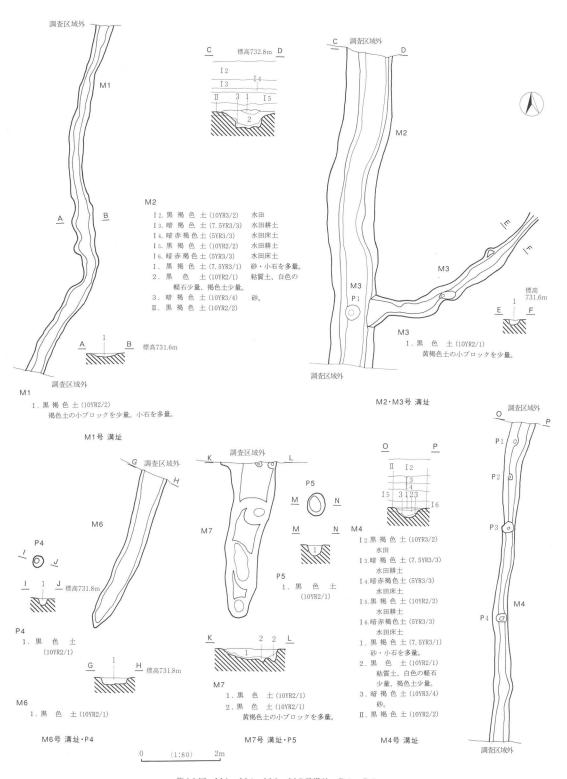






0 (1:4) 10cm

第10図 M2号溝址出土遺物



第11図 M1~M4·M6·M7号溝址 P4·P5

#### (5) M 5 号溝址

本址は、調査区のほぼ中央から検出された。遺構確認面は、全体層序の第Ⅱ層である。両端は調査区域外の南北へ続くが、北の試掘トレンチFでは確認されていない。南に接する赤座垣外遺跡では、M9号とされている溝址につながるとみられる。P2と重複しているが、本址が新しい。

幅は44~60cm、深さ4~11cmを測る。北から南へ傾斜し、比高差は6cmである。

底面は柔らかい。流水の痕跡はみられなかった。出土遺物はない。

#### (6) M 6 号溝址

本址は、調査区の西から検出された。遺構確認面は、全体層序の第 $\mathbb{N}$ 層である。北端は調査区域外の北へ続くが、北の試掘トレンチドでは確認されていない。

幅は40~66cm、深さ7~13cmを測る。北から南へ傾斜し、比高差は9cmである。

底面は柔らかい。流水の痕跡はみられなかった。出土遺物はない。

#### (7) M7号溝址

本址は、調査区の西から検出された。遺構確認面は、全体層序の第 $\mathbb{N}$ 層である。北端は調査区域外の北へ続き、北の試掘トレンチ $\mathbb{G}$ で確認された溝址につながるとみられる。さらに、試掘トレンチ $\mathbb{G}$ 検出された溝址へ続くものであろう。南に接する赤座垣外遺跡へは、続かないとみえる。

底面は柔らかい。流水の痕跡はみられなかった。浅い8㎝前後の窪みが5個所ある。出土遺物はない。

# 第4節 単独ピット

5個のピットが検出されたが、掘立柱建物址等に組み合わせが不可能なものであった。 P1はH2号住居址より、P2はM5号溝址より古い。

# 第Ⅲ章 まとめ

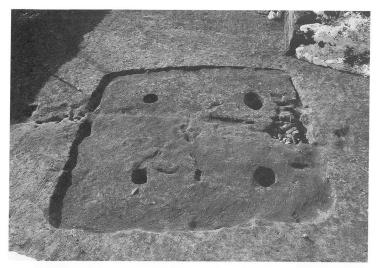
栗毛坂遺跡群・西赤座遺跡・枇杷坂遺跡群は、湯川の右岸から仙禄湖にいたる東西1,000mの台地上にある。台地東寄りの栗毛坂遺跡 B 地区・西赤座遺跡・赤座垣外遺跡から、古墳時代後期・奈良・平安時代の竪穴住居址が検出されている。台地西よりの枇杷坂遺跡群上久保田遺跡(平安時代48軒)・曽根新城遺跡(平安時代18軒)・栗毛坂遺跡 C 地区(平安時代40軒)からは、すべて平安時代の竪穴住居址が見つかっている。台地の東西で時期別の竪穴住居址のあり方が異なっている。

今回検出された竪穴住居址住居址2軒は、H1号住居址が奈良時代(8世紀第Ⅲ四半期)、H号住居址が平安時代(9世紀前半)であった。調査区に接する南側の赤座垣外遺跡では、竪穴住居址住居址18軒(古墳時代後期3軒、奈良時代2軒、平安時代11軒、時期不明2軒)、西に接する西赤座遺跡8(試掘調査のみ)では、竪穴住居址住居址36軒(古墳時代後期~奈良・平安時代)が検出された。

調査地の中ほどには北から南に傾斜する低地があり、遺構は認められず、西赤座遺跡10の試掘調査結果からも、西赤座遺跡範囲の東端が確認できた。すでに西端は、西赤座遺跡2・5・6の試掘調査や佐久市岩村田北部第一土地区画整理事業に関わる調査で、判明している。南端は、「田切り」の崖である。北端は、西赤座遺跡1・7が立会調査であったため不明確であるが、旧地形から栗毛坂遺跡B地区(奈良時代4軒、平安時代1軒。 長野県埋文センター調査)までは伸びていないとみられる。これらの結果から、西赤座遺跡および赤座垣外遺跡は、東西200m南北200m範囲の集落(古墳時代後期~奈良・平安時代)といえよう。

浅間山の噴出物に覆われた南麓一帯には、鋳物師屋遺跡群・中原遺跡群・芝宮遺跡群・長土呂遺跡群・周防畑遺跡群・栗毛坂遺跡群・枇杷坂遺跡群が展開し、古東山道、東山道、長倉駅、佐久郡衙、古代の生産地等の土地利用等々、佐久古代史の数々の課題を秘めている。

まもなく10万㎡にもおよぶ長土呂遺跡群聖原遺跡の調査結果が報告され、これらの課題に迫ることができよう。



H 1号住居址 (東から)



H1号住居址掘り方(北から)



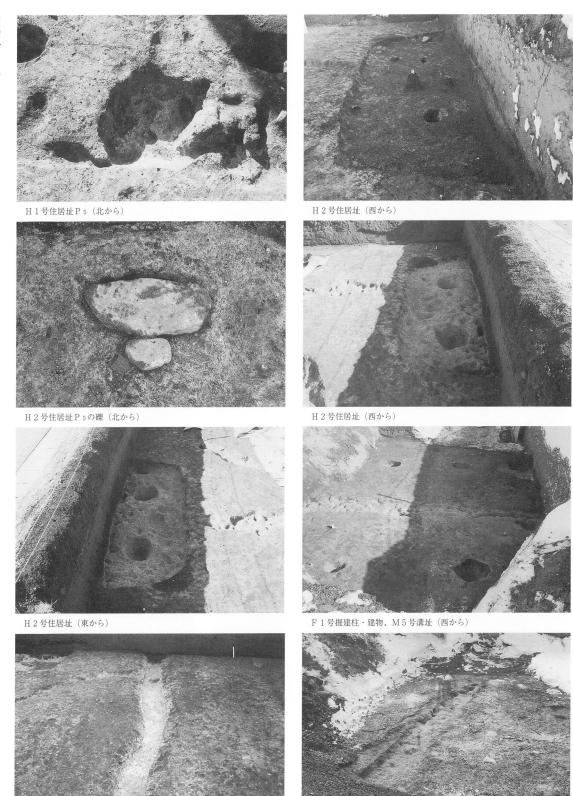
H 1号住居址 P5遺物出土状況 (北から)



M 4 号溝址 (北から)

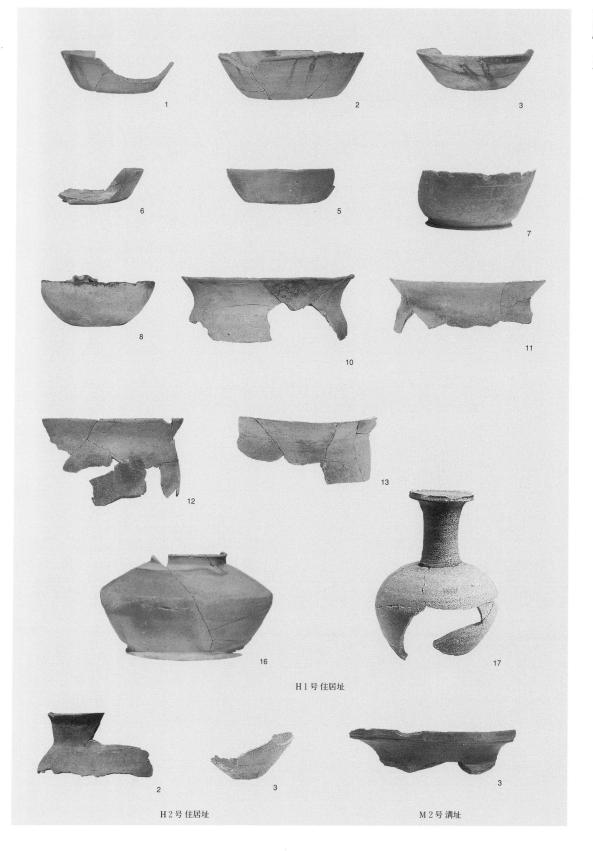


M7号溝址(北から)



M 6 号溝址 (北から)

M 2 号溝址 (北から)



# 佐久市埋蔵文化財調査報告書 第112集

# 西赤座遺跡

2003年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市大字志賀5953

TEL 0267-68-7321

印 刷 所 株式会社 櫟〈いちい〉

## 佐久市埋蔵文化財調査報告書

1777113			
第1集	『金井城址』	第56集	『聖原遺跡X』
第2集	『市内遺跡発掘調査報告書1990』	第57集	『高師町遺跡Ⅱ』
第3集	『石附窯址Ⅲ』	第58集	『下穴虫遺跡Ⅰ』
第4集	『大ふけ遺跡』	第59集	『市内遺跡発掘調査報告書1996』
第5集	『立科F遺跡』	第60集	『曽根城遺跡Ⅱ』
第6集	『上曽根遺跡』	第61集	『割地遺跡』
第7集	『三貫畑遺跡』	第62集	『野馬久保遺跡Ⅱ』
第8集	『瀧の下遺跡』	第63集	『西大久保遺跡Ⅲ』
第9集	『国道141号線関係遺跡』	第64集	『梨の木遺跡IV』
第10集	『聖原遺跡Ⅱ』	第65集	『中宿遺跡』
第11集	『赤座垣外遺跡』	第66集	『中西ノ久保遺跡Ⅱ 仲田遺跡 寺畑遺跡Ⅱ』
第12集	『若宮遺跡Ⅱ』	第67集	『供養塚遺跡』
第13集	『上高山遺跡Ⅱ』	第68集	『前藤部遺跡』
第14集	『栗毛坂遺跡』	第69集	『高山遺跡Ⅰ・Ⅱ』
第15集	『野馬久保遺跡』	第70集	『観音堂遺跡』
第16集	『石並城跡』	第71集	『市内遺跡発掘調査報告書1997』
第17集	『市内遺跡発掘調査報告書1991』(1月~3月)	第72集	『市道遺跡Ⅱ』
第18集	『西曽根遺跡』	第73集	『西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ』
第19集	『上芝宮遺跡』	第74集	『五里田遺跡』
第20集	『下聖端遺跡Ⅲ』	第75集	『八風山遺跡群』
第21集	『金井城跡Ⅲ』	第76集	『南近津遺跡』
第22集	『市内遺跡発掘調査報告書1991』	第77集	『番屋前遺跡Ⅲ』
第23集	『南上中原・南下中原遺跡』	第78集	『蛇塚遺跡 蛇塚古墳』
第24集	『上聖端遺跡』	第79集	『四ッ塚遺跡Ⅰ』
第25集	『上久保田向遺跡IV』	第80集	『四ツ塚遺跡Ⅱ』
第26集	『藤塚古墳群・藤塚』	第81集	『薬師寺遺跡』
第27集	『上久保田向遺跡Ⅲ』	第82集	『市内遺跡発掘調査報告書1998』
第28集	『曽根新城V』	第83集	『下聖端遺跡IV』
第20集 第29集	『筒村遺跡B 山法師遺跡B』	第84集	『榛名平遺跡』
第30集	『市内遺跡発掘調査報告書1992』	第85集	『柳堂遺跡』
第31集	『山法師遺跡A 筒村遺跡A』	第86集	『市内遺跡発掘調査報告書1999』
第32集	『東ノ割遺跡』	第87集	『宮添遺跡』
第33集 第33集	『架ヶ司息吟』 『聖原遺跡VI 下曽根遺跡 I 前藤部遺跡 2』	第88集	『下曽根遺跡』
	『五一本柳遺跡 Ⅰ』	第89集	『川原端遺跡』
第34集 第35集	『市内遺跡発掘調査報告書1993』	第90集	『梨の木遺跡』
弗35集 第36集	『叩內息跡光掘嗣且報白音1995』 『蛇塚B遺跡Ⅲ』	第91集	『西一本柳遺跡V・VI 中長塚遺跡 I・II
第37集	『比塚 B 遺跡Ⅲ』 『西一本柳遺跡Ⅱ 中西の久保遺跡Ⅰ』	わり1未	松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ』
第38集	『南下中原遺跡Ⅱ』	第92集	『辻の前遺跡Ⅱ・中仲田遺跡Ⅱ』
	『中屋敷遺跡』	第93集	『入高山遺跡』
第39集	『寺畑遺跡』	第94集	
	『号畑夏跡』 『曽根新城遺跡I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ	第95集	『市内遺跡発掘調査報告書2000』
第41集	上久保田遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅵ・Ⅵ	第96集	『上木戸遺跡』
	五久休田遺跡Ⅰ・Ⅲ』 西曽根遺跡Ⅱ・Ⅲ』	第97集	『久禰添遺跡』
竺40件		第98集	『深堀遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』
第42集	[寄山] 『佐田立事味 - 沙型事味。	第99集	『中道遺跡Ⅱ』
第43集	『権現平遺跡・池端遺跡』	第100集	
第44集	『寺添遺跡』		『野沢館跡Ⅲ』 『深堀遺跡Ⅳ』
第45集	『市内遺跡発掘調査報告書1994』	第101集	『深円正坊跡IV』
第46集	『濁り遺跡』	第102集	
第47集	『上芝宮遺跡V』	第103集	『聖原 第1分冊』
第48集	『池端城跡』	第104集	『聖石遺跡Ⅱ』 『曽担ば湯吹Ⅱ。
第49集	『根々井芝宮遺跡』	第105集	『曽根城遺跡Ⅱ』
第50集	『藤塚遺跡Ⅲ』	第106集	『樋村遺跡Ⅱ』
第51集	『寺中遺跡 中屋敷遺跡Ⅱ』 『FF の 大波 B な	第107集	『聖原 第2分冊』
第52集	『坪の内遺跡』	第108集	『市内遺跡発掘調査報告書 2001』
第53集	『円正坊遺跡Ⅱ』	第109集	『西一本柳遺跡団』
第54集	『市内遺跡発掘調査報告書1995』	第110集	『佐久平駅周辺土地区画整理事業』
第55集	『番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ』	第111集	『上ノ城遺跡』